

兵庫県保険医協会神戸支部 研究会

講演①「フレイル・サルコペニアは克服できるのか？
～多施設共同臨床研究から見えてきたもの～」

大阪市平野区・医療法人向坂医院 向坂 直哉 先生

講演②「漢方薬のフレイルに対する臨床成績と作用機序
～最新の知見を交えて～」

鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 漢方薬理学講座 特任教授 乾 明夫 先生

日時 5月12日(土) 午後5時30分～7時20分

※終了後、懇親会(会費無料)

会場 生田神社会館 3階 梅の間 (JR三ノ宮駅より北へ徒歩10分、TEL078-391-8765)

共催 クラシエ薬品株式会社 参加費 無料

厚生労働省は2018年度から本格的にフレイル対策を実施する。フレイルとは、加齢とともにみられるサルコペニアや運動機能や認知機能などの低下に慢性疾患の併存などが加わり、生活機能が障害され、心身の脆弱性が出現した状態である。健康な状態への復活が可能なステージであり、医療従事者には適切な介入がとめられている。しかしながら、フレイルに対する薬物療法のエビデンスはかなり少ない。以前、われわれは東洋医学でいうところの気血両虚を伴うフレイル症例に対し漢方薬を投与し、速やかにフレイルから脱却しえた症例を複数経験した。この経験をもとに臨床研究を開始し、現在は大阪府と奈良県にある6医療機関の多施設共同研究へと発展し、今もなお進行中である。
増え続ける高齢者に対して私たちは何ができるのか。基礎研究で示された陳皮のグレリン産生促進作用、人參のAMPK活性化作用、五味子の骨格筋PGC-1 α 発現誘導作用などエビデンスがそろいつつある漢方薬の世界を紹介したい。 【向坂 記】

高齢化の進む我が国において、予防医学の立場から注目されているのが、サルコペニアを基礎としたフレイル(frailty)である。サルコペニア(sarcopenia)は骨格筋萎縮をさし、加齢に伴うGH-IGF1系や性ホルモンの低下を背景に、急速に筋肉量の減少を生じやすい。フレイルは漢方で言う未病病態であり、フレイルを予防、加療することによる健康寿命の延長が愁眉の課題になっている。

フレイルは補剤の良い適応であり、多成分系を特徴とする漢方は、多様な身体疾患や食欲不振・不安・抑うつ・認知など、心身両面の異常を示すフレイルの治療に威力を發揮するものと期待される。人參養榮湯は最強の補剤とも称され、がんの緩和医療などに広く応用されてきた。本講演では、健康長寿に及ぼす人參養榮湯の作用とそのメカニズムを、エビデンスをもとにまたアンチエイジングの立場から述べてみたい。 【乾 記】

*お問い合わせは TEL 078-393-1807 神戸支部担当 小西・前川まで

【参加申し込み】FAX 返信：078-393-1820 - - - - -

神戸支部 研究会に () 人、懇親会に () 人、参加します

地区 _____ 医療機関・施設名 _____

代表者お名前 _____ 職種 _____

TEL _____ FAX _____

兵庫県保険医協会 312号 2018年4月25日
神戸支部ニュース

発行 兵庫県保険医協会神戸支部
連絡先 〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル5F
兵庫県保険医協会 TEL/078-393-1801 FAX/078-393-1802

診療報酬改定研究会 神戸4会場に1253人

診療報酬の大幅引き上げを

改定内容わかりやすく解説



(下) 会場は参加者でいっぱいとなった(22日、医科・神戸会場)

(上) 改定のポイントを解説する(右から)江原・高野両評議員、田中支部長、武富先生(24日、医科・神戸会場)



神戸支部は、3月22日(木)と3月24日(土) 参加者はマイナス改定に抗議し、診療報酬の大幅引き上げと患者負担の軽減を求める決議を採択した。

研究会の冒頭では武村義人副支部長が診療報酬をめぐる情勢について報告。安全・安心の医療のためには、看護師やスタッフなど医療従事者の給与の原資となる診療報酬引き上げが重要
研究会は、3月18日(日)と4月8日(日)に歯科診療報酬改定研究会を兵庫県農業会館と協会会議室で開催した。医科は2会場に医師、スタッフら783人、歯科は2会場に歯科医師ら470人、合計1253人がつめかけた。参加者からは、算定要件の変更や複雑化した点数などへの質問が相次いだ。

(2面につづく)

（1面からのつづき）

であることや、政府の財政赤字の最大の要因は高齢化による社会保障費増ではなく法人減税などによる収支減であるなどとし、診療報酬の大幅引き上げと患者さんの窓口負担の引き下げが重要だと解説。参加者に「診療報酬改善と大幅引き上げを求める要請書」への署名協力を訴え、

神戸会場全体で296筆が集まった。

医科では田中孝明支部長、小西達也副支部長、江原重幸支部幹事、高野修一評議員、武富雅則先生が、歯科では川村雅之理事ら歯科社保講師軍が講師を務め、改定内容のポイントを解説。参加者は、マーカーをひく、付箋をはるなどして、熱心に耳を傾けた。

研究会「増加する大人の食物アレルギー」感想文

迷ったらためらわずエピペン使用を

神戸支部は3月3日、研究会「増加する大人の食物アレルギー～身につけたいアナフィラキシー対応の基本～」を開催。中京大学スポーツ科学部教授で認定NPO法人アレルギー支援ネットワーク・理事長の坂本龍雄先生が講演し、医師・歯科医師ら42人が参加した（前号既報）。吉本秀雄先生の感想を紹介する。

春一番と共に、花粉症の方には厳しい季節となりました。今回、坂本先生には「増加するアレルギー」について、ご講演いただきました。短時間でしたが、アレルギーのメカニズムおよび全身的な症状を分類して説明していただき、真にありがとうございました。

講演後の懇親会でも、分かりやすく説明していただき、また、先生のお人柄にもふれ、楽しい一時でした。

締めくくり提言。アナフィラキシー

の疑いがあれば、ためらわずアドレナリンの筋肉内注射を。それにはまず、エピペンを随時携帯する。これに限りますとのこと。楽しい食事、また、日ごろの診療においても、この提言を心がけるつもりです。先生、ありがとうございました。

追補 今回の食物以外にも金属・木材等々、抗原が存在、年齢に関係なく発症するかもしれない、先生の今後の研究に期待しております。



エピペンの使い方など、活発な質疑応答が行われた

【明石市・歯科 吉本 秀雄】

健康と医療について語り合う会 感想文

肺炎についての知識深まる



（左）肺炎予防等について講演する土屋貴昭先生
（右）質疑応答では参加者から日頃の疑問や不安が寄せられた

神戸支部は3月22日に、神戸市立総合福祉センターで健康と医療について語り合う会を開催した。これは聴覚障害者らが医療や健康についての情報を学ぼうと定期的に開催する「聴覚障害者の医療を考える会（いのちを考える会）」の講師派遣の要請に応じているもの。須磨区・神戸医療センター呼吸器内科部長の土屋貴昭先生が「肺炎球菌予防接種-これって受けたほうがいいのか?～」と題して講演し、市民、聴覚障害者の方を中心に26人が参加した。参加者の感想文を紹介する。

手話サークルに所属している私はいつも「聴覚障害者の医療を考える会」に参加するのを楽しみにしています。今回は「肺炎球菌予防接種～これって受けた方がいいの?～」というテーマで呼吸器内科・土屋貴昭先生のお話でした。すでに予防接種を受けており、胸を張る?気分が参加したのですが、お話が進むにつれて肺炎に関する知識が薄かったことに気がきました。

65歳からの肺炎予防が大切なのは加齢に伴う免疫機能が低下して感染しやすくなるからで、肺炎を引き起こす一番の原因菌が肺炎球菌であること。この菌が人（特に小児）の鼻咽頭に常在していて、人から人に感染して発症すること。肺炎球菌ワクチンには二つの種類があり、私が

定期接種で受けたのはニューモバックスNPワクチンであること等初めて知ることばかりでした。

インフルエンザ肺炎は肺炎球菌の仕業で起こることが多いとお話もあり、質問の時間には聴覚障害のある皆さんからインフルエンザに関する日頃の疑問や不安が多く寄せられていました。病気のことは誰でも一大関心事ですが気軽に医師にたずねる機会は少ないので、手話通訳の付いたこの「いのちを考える会」は聞こえない関係なく共に病気の知識を深め、健康な暮らしを考えていく貴重な場であると常々感じています。

【石原 美玉】